

空間と人間の拡張技術の将来的普及と 思考・生活への影響に関する考察

長谷部有玄, 井上航, 白井康之
大東文化大学 経営学部

概要

近年、VR (virtual reality: 仮想現実)・MR (Mixed Reality: 複合現実)などを始めとした拡張技術が注目されている。いまだ一般に広く浸透しているとはいえないが、近い将来には徐々に私たちの生活により密接に入り込んでくるものと思われる。VR, MR の現状とその後の影響を考察する。

人間拡張とは

主に人間の先天的能力に由来しない能力を新たに加えたり、本来なら保持主に人間の先天的能力に由来しない能力を新たに加えたり、本来なら保持していたであろう能力を補綴する形で加える。また、現在保持している能力の向上が拡張技術に含まれる。



<https://innophys.jp/about/>

落ちた能力、劣っている能力を補綴する。必要性は高い。

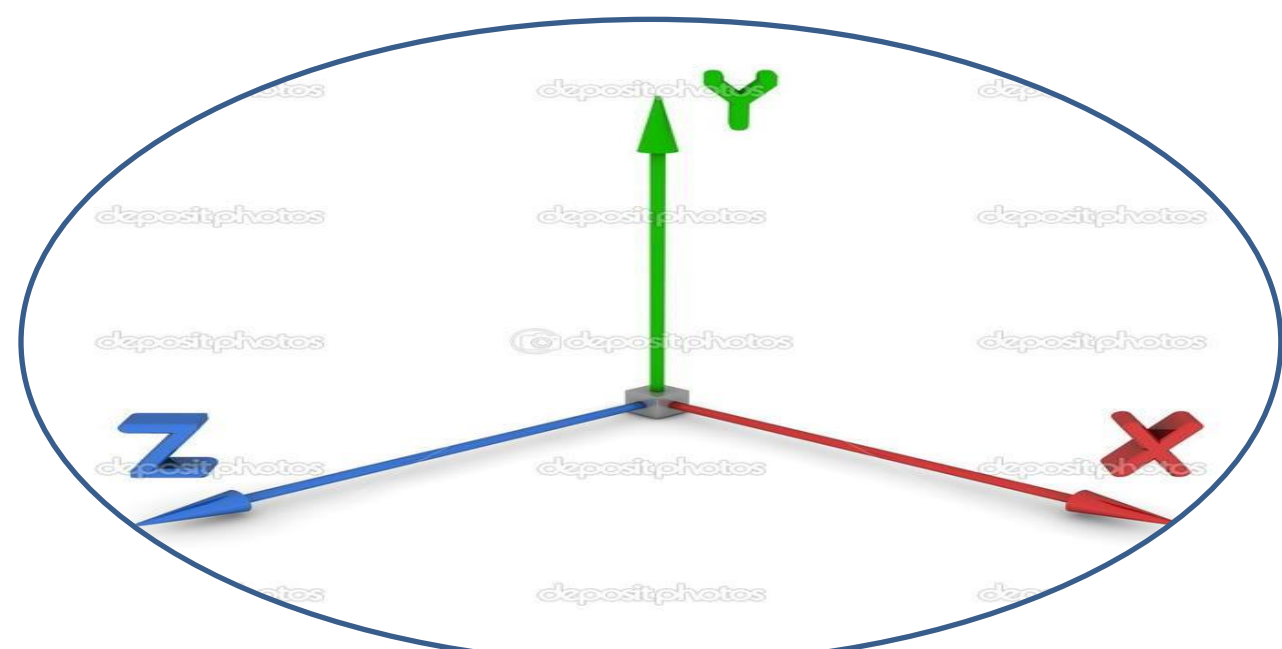


<https://www.gizmodo.jp/2017/12/double-hand-glove.html>

すでに人間が持っている能力を向上させる。利便性や生産性を革新的に上げる可能性があるが、普及が課題となる。

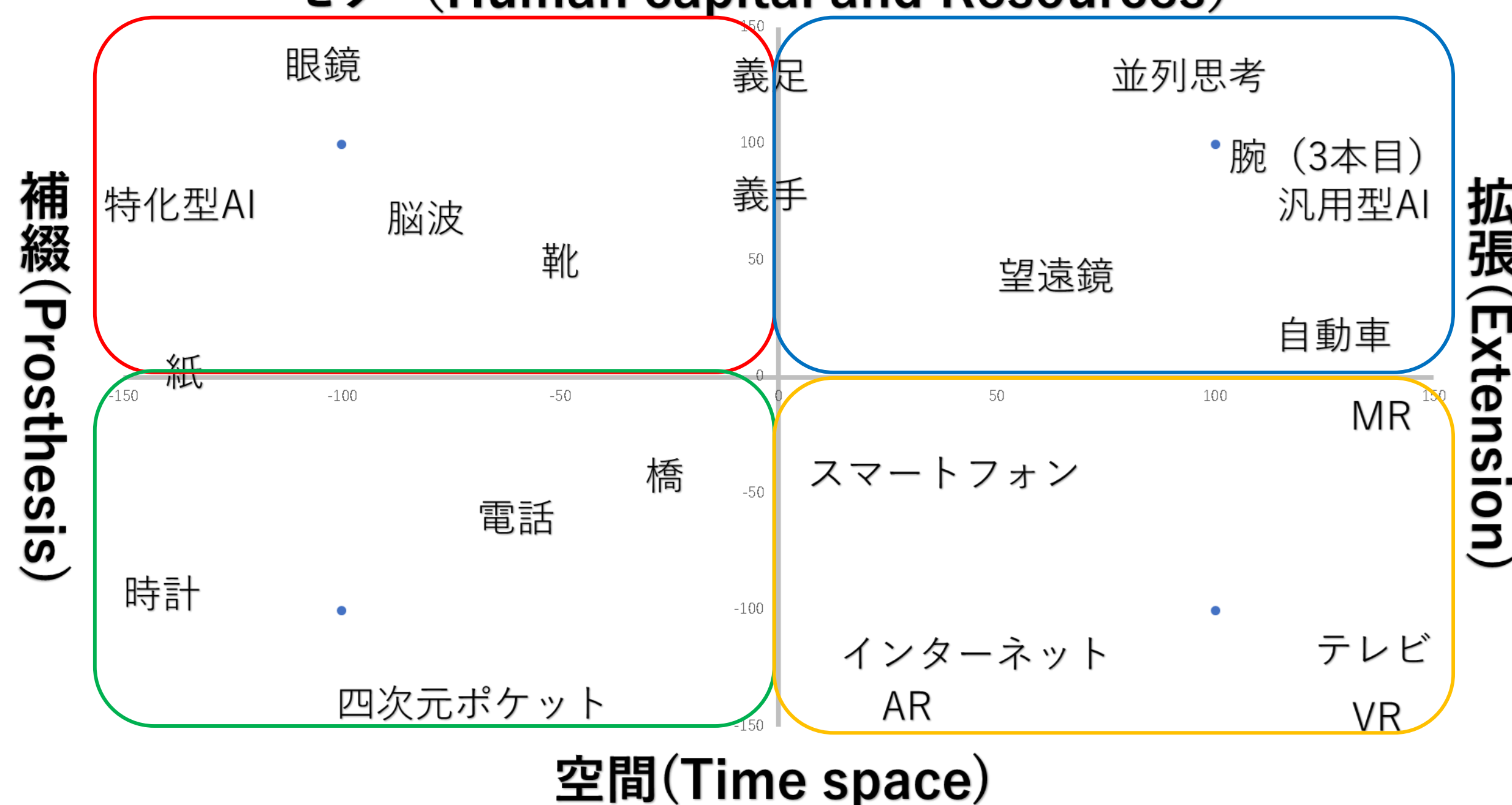


時間や空間をコントロールできるようにする。必要性・利便性は高い。



<https://www.kizlarsoruyor.com/diger/q4097744-hangi-x-y-z-sekli-dogru>

モノ (Human capital and Resources)



<http://sukasukasky.wpblog.jp/2015/11/20/>



<https://gigazine.net/news/20160408-ikea-vr-kitchen-vive/>

生活様式を変えるプラットフォームになる可能性があり、将来の生活が強く依存する技術となる。



<http://holoeyes.jp/?lang=ja>

今後の考察と課題

- VR, MRの拡張技術は仕事・生活において新たなプラットフォームとなるが、他方、物理的境界が曖昧になり、精神的に負担がかかることや混乱が生じることが考えられる。
- 拡張技術は物事を効率化させるものだが、物事が濃密化され逆に作業量が増えてしまう。
- 体の使い方が変わるが肉体を直接拡張するのは忌避感が高い。
- 今日思考の発端がスマホの存在を前提にしていることから、後の世代の環境や考え方は将来普及する技術に依存する。
- 今後はニーズやユーザインタフェースや比較優位などから将来的な普及の可能性について検討する。